就任1年後に思う

東京医科歯科大学 学長
吉澤靖之
Yasuyuki Yoshizawa

私が学長に就任したのは2014年4月1日です。

私は大学運営上、大学の将来像を教職員、学生、同窓生の全員が共有して(愛校心)、その目標に向かって力を発揮する環境作りが重要と考えました。

就任後すぐに理事体制、副理事体制をとり、任務分担と指揮系統を明確にして業務の一貫性を目指しました。同時に執行部内での情報共有と大学運営への直接的参加を促すため、幹部による統合戦略会議を設けました。一方、学長のリーダーシップが発揮できるように学長企画室を設けて、学長の発案が早く実行できる体制を整えました。さらに今までの事務体制で業務が重複する場合は再編統合を行い、効率化を図ってきました。その上で、教職員の努力、実績を評価して処遇や職場環境を改善するようにしました。

大学の将来像を明らかにして個別施策を練るために大学の基本理念策定に入り、先日完成し公表しました。基本理念の前文として「学問と教育の聖地、湯島・昌平坂(しょうへいざか)に建つ本学は、医療系総合大学として『知と癒しの匠』を創造し、東京のこの地から世界へと翼を広げ、人々の健康と社会の福祉に貢献します」とし、その意は「知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する」ことであります。その中で特に教育、研究、医療について理念を述べており、大学の構成員はこの理念に基づき、それぞれの役割を自覚し、自らの使命を果たしていただきたいと思います。教育については、教養教育改革をはじめ全学的観点から教育を統括し、IR機能も兼ね備える統合教育機構設立を開始しております。

また本年度は、スーパーグローバル大学Aに選ばれ、地球的レベルでのグローバルヘルス教育を行っていくことになりました。採択される前からですが、今までの国際関連の部署を再編強化して統合国際機構の設立を検討しており、国際化を強力に推進したいと考えております。研究面では大山学長時代に設立したURAと産学連携研究センターとの連携を図り、リサーチ・ユニバーシティとして医療イノベーション推進センターを設立し、大学発ベンチャー企業の設立を果たしました。医療面では遺伝子情報を活用した個別化先制医療を推進する「長寿・健康人生推進センター」およびオリンピック金メダリストであり、スポーツサイエンスの博士号を持つ室伏広治氏を教授として迎えて「スポーツサイエンス機構」を設立しました。

以上1年間、戦略を明確にして努力してきたと考えております。

今年の年賀状の中に、先輩や後輩から「社会から見える大学になってきている」、他の大学の先生からは「総合的に日本のトップ大学になった」、海外滞在の同窓生から「愛校心について共感できる」などうれしいメッセージがありました。また最近、学内を歩いていると教職員、学生、患者さんはもちろんですが、海外からの留学生やスタッフからも会釈を受けるようになり喜んでおります。

さて、1年経過しての結果は、教職員、学生、卒業生、社会に判断していただきます。

今後も私のモットーである「積極思考で全力を尽くす」「己を知れば邪心なし」の精神で邁進しながら教職員、学生、同窓生、患者さんとともに愛校心を育てながら、世界に冠たる医療系総合大学を目指していきたいと考えています。

学長室の改修工事が行われ、新しい学長室が誕生しました。新学長室内には区切られた応接室が新設され、会議や来客への応対などに利用されます。

医科歯科大
BLOOM!
March 2015 No.18

CONTENTS

4
特集1
TMDU型グローバルヘルス推進人材育成構想
医学と歯学の強みを生かし
地球規模での健康増進に寄与

9
基本理念

10
特集2
人々の幸福に貢献する
東京医科歯科大学の産学連携

14
医療研究 ★ 最前線 未来医療を拓く
オートファジーの新たな機構
免疫疾患などの医療の鍵に
病態細胞生物学分野　清水重臣教授

母乳が脂肪の燃焼機能を促進
生活習慣病の「先制医療」へ
分子内分泌代謝学分野　小川佳宏教授

18
附属病院 ◎ 診療科訪問
医学部附属病院　消化器・一般外科

19
卒業生の今
「活躍する医科歯科人」
東京都立墨東病院 看護部（歯科口腔外科）
吉田沙織氏

20
医科歯科大生 file
「自ら問い、自ら導く学生たち」
歯学部口腔保健学科4年
森下琴以さん

21
医科歯科百景
クリスマスイルミネーション

22
Campus Information

今号の表紙
立体駐車場の屋上庭園の名称が、学内公募により「知と癒しの庭」に決定しました。2014年10月19日に開催されたホームカミングデイにおいて、名称決定を記念する式典と銘板の披露が行われました。